総務省 情報流通行政局 総務課 統括補佐
岡井 隼人　Hayato Okai

平成 12年 4月　郵政省採用
　　同　通信政策局総務課
平成 13年 7月　総務省情報通信政策局衛星放送課
平成 14年 7月　加国留学（カールトン大学）
平成 16年 7月　総務省情報通信政策局放送政策課政策係長
平成 18年 8月　　同　大臣官房管理室公益法人行政推進室
　　参事官補佐
平成 19年 4月　内閣府公益認定等委員会事務局参事官補佐
　　併任　内閣官房行政改革推進室参事官補佐
平成 21年 7月　総務省総合通信基盤局電気通信事業部
　　料金サービス課課長補佐
平成 23年 7月　　同　総合通信基盤局電気通信事業部
　　消費者行政課課長補佐
平成 24年 6月　在ジュネーブ国際機関日本政府代表部一等書記官
平成 27年 7月　現職

放送の、新たな可能性を

「あなたの心に残る番組は何ですか？」

こう尋ねられたとき、どんなシーンが思い浮かぶでしょうか。小さい頃に観たアニメ。主人公に共感したドラマ。パーソナリティの声が心地良かった深夜ラジオ。激動の世界を報じたニュース。私のように、プロ野球中継の名場面や、出演者と一緒になって考えたクイズ番組を思い出す人もいるでしょう。放送は長年、身近なメディアとして日々の生活を彩るとともに、重要な情報を世の中に伝えてきました。

入省以来経験した総務省の業務は、どれもがこのように「身近」で「重要」な分野に貢献するものでした。そして、放送行政全般に関わっている今、その特徴をとりわけ強く実感し、励みにしています。

行政官として、視聴者として

例えば、４Ｋ・８Ｋ放送の推進に取り組むとき。新たな放送サービスがさらに「身近」になっていくのを肌で感じます。多くの方々がテレビやパブリックビューイングで４Ｋ・８Ｋの迫力ある映像を楽しんでいる――私たちの目指す2020年の姿です。また、自分自身も一人の視聴者として、その姿を待ち遠しく思いながら政策を進められるのは、この業務ならではの魅力かもしれません。

私は、若手の頃にも一度、このような放送の進化を経験しています。当時初めて放送政策に携わった私は、通信の設備を利用した新しい放送の制度作りを担当しました。先輩方のサポートの下、連日の議論や条文の調整を経て、ようやく制度が立ち上がった後のある日。町中の量販店で私が見たものは、私が手がけた新制度を利用したサービスとそのパンフレットでした。購入を検討するお客様の姿は、今でもよく覚えています。

災害に備えてできること、災害の時にできること

防災の取組や災害発生時の対応では、放送の「重要」性を改めて感じます。災害に備えて、非常用電源や予備のケーブルの整備を後押しする。災害の時には、臨時の放送局設備の貸出しなど放送による情報提供を支援する。熊本地震の際には多くの職員が発生直後に参集し、対応に当たりました。状況が少し落ち着いた頃に読んだ、ラジオが被災者の支えになっているという記事は強く印象に残っています。自分達の持ち場で尽力することが遠く離れた被災地の役に立つ、ということを改めて感じた瞬間でした。

百年目の「放送」とその将来像

総務省の担当分野、特に放送・通信は環境変化の早さが特徴として挙げられます。絶えず移り変わる時代の流れを捉え、多彩な先輩・同僚と一緒に将来を創りあげていく。これができるのも総務省の面白さといえるでしょう。放送も、近年はネットによる動画配信が充実し、「テレビ離れ」の傾向がみられるなど、大きな動きの只中にあります。冒頭の質問に対して、今や思い入れのあるネット動画を挙げる方がいらっしゃるのかもしれません。

今年は、「放送」という日本語が生まれてちょうど百年目に当たります。当初は発信者不明の電信を意味したと言われる「放送」。百年の間に大きく発展し、国民に広く深く浸透しました。かつてない環境の変化に対応するその未来を、一緒に描いてみませんか。

お気に入りのマグで一息

情報通信の可能性

情報通信といえば皆さんはスマートフォンやインターネットを想像するでしょうか。今や情報通信は、教育、医療、防災、農林水産、観光など、あらゆる分野に関係する社会経済活動の基盤となっています。

とりわけ、モノをインターネットでつないで新しい価値を創出する「IoT（Internet of Things）」は、地域が抱える課題の解決や地域活性化の手法を低コストで大きく変革させる可能性を秘めています。

例えば、自分の健康・診療情報をスマホで管理できれば、それに応じたサービスを迅速かつ効率的に提供することができ、地域に住む方々は安心して元気に暮らせるようになります。

また、海洋に設置した気象・潮流などを感知するセンサーから漁獲量を予測し、それを飲食店との取引に反映させ、海の中からの産地直送を実現することで、地元の漁業関係者の方々の収入安定にもつながります。

このように情報通信の力を活用して、世の中を変えていくこと、これが総務省に与えられた使命なのです。

情報通信行政の醍醐味

「IoTを日本全国の各地域に広げること。」与えられたテーマはこれだけ。私が現在取り組んでいる仕事は、ここからスタートしました。

何を課題として設定するか、何を具体的な施策として打ち出すか、どのように政策を進めていくかに制約は何もありません。あらゆる政策ツールを総動員して、自由に考え、それを形にしていくのです。

そこから３ヶ月。地方の首長、大学の教授から、情報通信で公共サービスを変革しようとする市民団体の代表、20代の女性ベンチャー企業創業者まで、多くの方々のお力を借りて議論の場が立ち上がり、わずか３ヶ月で、各々の分野ごとに地域への導入の数値目標を定め、それをどのような政策手段で達成していくかを明示したロードマップができあがりました。

そして現在は、地域の方々にその意義を十分に感じてもらい、IoTが各地域の隅々まで広がるよう、全国各地を訪問する日々が続いています。

このように、次々と現れる新たなテーマに対し、全てが自由の中で、スピード感を持って新たな政策をつくっていく。そして、その政策で世の中を着実に変えていく。これが総務省の仕事の醍醐味だと感じています。

総務省という職場

今の仕事も含め、総務省の仕事は、主にチームでつくりあげていくものです。思えば、これまで携わってきた仕事の数々は、常に前向きで自由な発想を持つ、個性溢れる多くの先輩や後輩に支えられてはじめて成し遂げることができたのだと実感しています。

こうした魅力的な職員がたくさんいるのは、若手も含めて誰もが自由に議論ができ、皆が自分の仕事を楽しんでいるという総務省の職場の空気がもたらしているからだと感じています。

そしてそれは、未来をつくることで世の中を変えていくという情報通信の可能性、そして、前例も制約もなく自由に新たな政策を打ち出していくという情報通信行政の醍醐味から来ているのではないかと思います。

皆さんもぜひ、この無限の可能性を持つ総務省という職場で楽しく働いてみませんか。皆さんと議論を交わしながら一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

総務省 情報流通行政局 地域通信振興課 課長補佐
石谷 寧希　Yasuki Ishitani

平成 14年 4月　総務省採用
　　同　総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
平成 16年 7月　　同　総合通信基盤局電波部電波環境課
平成 17年 1月　　同　総合通信基盤局電波部電波環境課
　　兼　移動通信課
平成 17年 8月　財務省主計局法規課調査主任
平成 19年 7月　総務省総合通信基盤局電波部電波政策課専門職
平成 20年 7月　　同　総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐
平成 21年 7月　在マレーシア日本国大使館一等書記官
平成 24年 7月　総務省総合通信基盤局電気通信事業部
　　事業政策課課長補佐
平成 27年10月　総務副大臣 兼 内閣府副大臣秘書官
平成 28年 8月　現職

イクメンとしても活躍中！

自由に考え、未来をつくる